

岡本眸の冬の句

二学期の終る記憶に松立てり  
初夢に何やら力出しきりし  
冬深し急ぐを常の靴音も  
考へを絶つ寒灯下過ぐるたび  
帰り来て別の寒さの灯をともす

松岡隆子 抽